

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫便り

平成 25 年 4 月 18 日 (NO.1)

浦幌町教育委員会



推進委員会 発足する

■平成 25 年 2 月 7 日、「浦幌町小中一貫教育推進委員会」が発足しました。

9 年間を見通した教育を目指し、児童生徒の「学び」と「育ち」の連続性を重視した取組を進めていきます。

市街地区と上浦幌地区にそれぞれ組織された地区コーディネーター会議で協議し、小中間の授業参観や交換授業など、できることから取り組んでいきます。

■浦幌町では、平成 24～26 年までの 3 年間で小中一貫教育(コミュニティ・スクール)の研究・試行期間とし、27 年度から全面実施の運びとなります。

なお、教育研究所(森所長)に「小中一貫教育の在り方」について諮問しますので、主たる業務として研究していただきます。

○現在、浦幌町広報紙「うらぼろ」の特集アシル・レーラで、「小中一貫教育～学びの連続性～」を掲載しています。

- ・2 月号 三笠市の視察報告
 - ・3 月号 東京都品川区視察報告
 - ・4 月号 東京都三鷹市視察報告
 - ・5 月号 三笠市公開研究大会視察
- 今後も掲載しますので、「浦幌小中一貫便り」とあわせてご覧ください。



Q&A

Q1. 小中一貫教育とは、どのようなものですか。

■小学校と中学校の教職員が連携を深め、義務教育 9 年間を見通した視点で、児童生徒の「学び」と「育ち」の適時性と連続性を重視した教育活動を行うものです。

主に次の 3 点がポイントです。

- ① 小中共通の(目指す子ども像)の設定
- ② 9 年間を見通した一貫した指導
- ③ 小中教職員による協働実践

■これまでも小中が連携して、生徒指導や一部の教育活動において一定の成果をあげてきました。しかし、いずれも部分的な取組であったため、学校全体としての高まりや、小中学校相互の教育活動に影響を及ぼすまでには至りませんでした。

児童生徒の実態や課題を小中学校間でしっかりと共有し、9 年間を見通した指導内容や指導方法を通して、校区の特色を行かした教育活動を行う必要があります。 ☆☆☆☆☆

Q&A

Q2. なぜ、小中一貫教育に取り組むのですか。

■「中 1 ギャップ」に象徴される小中学校間の段差を軽減するとともに、9 年間の学習内容を見通した「わかる授業」を行い、「確かな学力」を身に付けます。

また、「自尊感情」の向上や「人間関係力」の育成、「地域の絆」づくりを図ることなども小中一貫教育の目的です。 ☆☆☆☆☆

Q&A

Q3. 「中 1 ギャップ」は、なぜ起きるのですか。

■中学 1 年生の段階で、学習意欲の低下が見られたり、不登校や問題行動が急増したりする現象です。教科担任制や学習内容の高度化、学習方法のギャップなどの要因が考えられます。